

●令和2年度一般入試前期日程試験講評（英語）

ねらい

前期試験では、大学で求められる基本的な学力を試すことを念頭に、センター試験とは異なる視点で総合的な英語力を問う。具体的には、長文の内容を素早く読み取り、その要点を英語で簡潔に表現する力や、未知の語彙について文脈中で説明されている箇所を的確に理解する力(或いは、語彙の説明がなされている箇所を的確に理解する力)、自分の考えを英語で論理的に表現する力を試すことをねらいとしている。

全体講評 I、II

「ねらい」にある「要点を英語で簡潔に表現する力や、未知の語彙について文脈中で説明されている箇所を的確に理解する力」を試す問題である。記述式問題の解答においては、問題文の意味を読みとれていない解答や、正解に該当する箇所をただ抜き出しているだけの解答、完全な文（主語、動詞を伴う文）で答えられていないものなどが多かった。正解を導き出すには、本文だけでなく問題文もよく読み、問いに対応した形に本文の表現をパラフレーズさせて答えることが重要である。日頃から主語と動詞の対応などを考えながら、英文の問いに対して適切に対処する練習を行ってほしい。また、本文中の難しい単語の意味に関しては、ある程度前後の内容から予想することができる。接続詞、形容詞、副詞などに着目して、文の大まかなニュアンスを把握することを心がけよう。

各設問について

I

問1

問題の英文は、文と文が but でつながれているという、中学英語レベルの単純な構造である。but の左側の前半の英文では、主語が Critics で、動詞が say、その目的語が節 (esports から sport まで) である。but に続く後半の英文では、主語が some で、動詞が point である。残念であるが、正答率は1割程度であった。

まず、前半の英文であるが、多くの受験生が名詞 critic(s)の意味を知らないという現実に驚かされた。Cities と綴りが似ているので、強引に Critics を「都市」や「市」と訳した答案が目立った。動詞が say なので、妙だと思わなかったのだろうか。『ジーニアス英和辞典』によると名詞 critic は高校学習レベルと記されている。

次に、後半の英文であるが、some が名詞 point を修飾していると誤って解釈した答案が目立った。some が修飾するのであれば、複数形 points になって当然である。その解釈は誤りであると、自ら気づいてもらいたかった。次に、some の直後に critics が省略されており、

point to …は「…を示す・指摘する」を意味するという点に気づいてほしかった。

受験する前の準備として、辞書に高校レベルと記された語句は完全に覚えること、また、間違った解釈をしているとき、それに自分で気づく感性を養うことを受験生には求めたい。

問2

問いの英文 What are esports?は、「e スポーツとはどういうものか?」という意味である。基本的なことだが、be 動詞が are なので、esports は sports と同じく複数形であることが分かる。

また、本文全体が esports に関して述べられているので、esports が極めて重要な単語であることも分かる。よって、esports についての説明は、冒頭のあたりかそれに近い箇所で述べられるのが一般的である（英語の文章に限らず、日本語でも同じである）。具体的には、段落②の2行目から4行目にかけて述べられている。重要なのが、2行目の esports の直後の or である。ここでは、「または」という意味ではなく、「すなわち、つまり」という意味で、or の左側の表現の説明を右側で示す働きをしている。結果として、質問への答えは、or の右側に記されているのである。これと関係の無い箇所から強引に英文を引用した解答が目立った。その多くが、esports という単語を目印にして、なんとか答えを当てようとしたものであった。

完全な英文として、答えを表現するためには、主語を Esports か They にし、動詞は be 動詞 are を用いれば良い。正答率は3割程度と低かった。

問3

問題文は「韓国やアメリカ、ヨーロッパに比べて、日本における e スポーツ関連の産業の成長はどうなっているか?」の意。growth「成長」の意が読みとれていないのか、誤答が非常に多かった。それほど大きなパラフレーズが必要な問題でもなかったので、正解に該当する箇所が見抜けた答えはほぼ満点解答であった。第2段に「日本は e スポーツの促進が韓国、アメリカ、ヨーロッパに比べて遅れている」との記述があり、この部分を答えればよい。lag behind「立ち遅れる」は難度の高い表現であるが、Although で始まる従属節が、日本が有名なゲームを生み出した国であるというポジティブな内容であることから、lag behind を含む主節がネガティブな内容であることはある程度推測できるはずだ。

問4

問題文は「本文によると、なぜ金沢は e スポーツのメッカになろうとしているのか?」の意。比較的正確率の高い問題であった。第4段第1文に「ほかの地方都市と同じように、日本の中部にある金沢は東京やほかの大都市へ若者が流出している」とあり、この部分をまとめればよい。第8段にある、e スポーツ促進を通じた金沢のこれからの計画をまとめている

解答も散見されたが、問われているのは e スポーツ促進の「理由」なので不適。

問5

問題文は「本文によると、e スポーツを促進する上で金沢が有利な点は何か？」の意。誤答としては、問4の答えである「人口が流出している」ことを挙げているものがあったが、あくまで「金沢が有利な点」を答える問題なので、金沢の良い部分について触れている箇所を探す必要がある。第6段の given that 以下に「街（金沢）には芸術・科学関連の大学だけでなく、多くの情報テクノロジーの企業の本社がある」との記述があり、この部分をまとめればよい。given that SV は「...であることを考えて」の意。

問6

解答状況は良好だった。

問7

指示文に「英語の完全な文で答えなさい」とあるのに、ほとんどの受験生の解答には「主語」が抜けていたり、「動詞」が書かれていない。英語の重要な基本文型をしっかりと学習しなければならない。また、約半数の受験生が“I agree/disagree this idea.”、あるいは、“I’m agree/disagree this idea.”と書いていた。単語が使えるようになるためには、例えば、“I agree/disagree with (to) this idea.”のように「連語」として覚えることを勧める。

II

問1

過去分詞、現在分詞の形容詞用法や無生物主語構文で間違いが多く見受けられた。文法項目や構文の学習を大切にして、さらに修養を続けてほしい。

問2～問4

おおむね解答状況は良好だった。

問5

おおむね解答状況は良好だった。ただ、解答の中には、文の主語になる部分がなく、Found、Revealed で始まる解答が散見された。完全な文で答えるように指示されているので、問題の指示をよく読むこと、また、英文の構造にも気をつけることが必要である。

問6

パラグラフ 11 に、「福島からの避難者は方言を使うのが難しいと感じている」という記述

があるが、それはなぜかと問う問題である。これはその文の後半に、“because of concerns about being bullied or discriminated against” という部分があり、この部分が理由になっている。

但し、「英語の完全な文で答えよ」という指示があるので答え方に工夫がいる。単純に上記の部分抜き出しただけでは、完全な文とはならない。上記の部分が理由であることは大多数の受験生は理解しているが完全な文で答えたものは少なく、部分点で換算すると正答率は、6割程度である。

上記の箇所に出てくる concerns は名詞であるが、それをそのまま動詞に転用して文を作っている例が非常に多かった。concern は動詞で用いる場合、be concerned (about) と受身の形を取らなければならないが、その語法を理解していない多くの解答があった。

問7

この問いでは、問題文 II 全体を読んだ上で、方言が若い世代に受け継がれることを確保するためにはどのような努力が必要かを問っている。いくつか解答の候補が考えられるがこれから2つを取り上げ、完全な文で解答すれば正解となる。

この問いも問6同様、取り上げる個所は捉えているものの完全な文章での表現に苦慮している解答が多かった。部分点で換算すると正答率は、6割程度である。

問8

内容一致問題で、問題文 II 全体が読めていれば簡単に正解にたどり着くはずであったが、これも6割程度の正解率であろう。文全体を文脈として読むのではなく部分的に読んでしまっているのではないかと考える。

全体講評 III

総評

大学入学後に必要となる英文構成法に基づいて、論拠・理由を示しながら自分の考えを論理的に英語で表現できるかを試した。問題 I、II の英文内容も参考にして書かなくてはならないため総点の半分を占めている。エッセイを捨てているように思える答案があるが勿体ない話である。

昨年度に続き今年度も、語数を200語以上とした。しかし、例年出題している形式の問題であるので、対策はし易いはずである。昨年と同じように、(1)導入 (introduction)、3つの段落から成る本論 (body) と結論 (conclusion) から成る短いエッセイを書くこと、(2)自分自身の経験を含めたり、問題 I、II の英文内容も参考にして書くこと、を要求した問題となっている。多くの受験生がエッセイを書くための英語の指示文 (Instruction for Essay

Writing)を読んでおらず、主文が1～2段落から成るものが散見された。また、このInstructionを読めば、結論部分は新たに論を展開せず、本論のまとめの部分であることが読めるはずである。指示文から何を求められているのかという情報を読み取ることが重要であることが分かるであろう。また、問題文を「参考にして」という部分を誤解し、問題I、IIの英文をそのまま写したり、要約したりしただけの解答が多くみられた。このような解答は減点対象と成り得るので注意が必要である。

常に日本語・英語の指示文をしっかりと読み、問題を解く習慣をつけることが肝要である。対策法としては、(1)日頃から日本語や英語の文章を読むこと、(2)読んだ内容に対して(批判的に)考えること、(3)読んで感じたこと・考えたことを書くこと、を習慣化することがある。これによって読解力や分析力が深まり、入試対策のみならず、深みのある学力や教養を養うことが期待される。

高校の英作文の教科書は非常に良くできているので、英文を書く際の参考にして、英語の文章構成を理解し、それに則って何度も小論文を書く練習をするとよい。また、以下の「答案作成についての講評」で指摘されている点にも十分に留意して小論文を書く練習をすることを勧める。

答案作成についての講評

英文エッセイでは「都市部へ流出しがちな若者をどのようにしたら地方に引き留めることができるのか？」というトピックに関して「問題文I、IIの内容」を参考にしながら「具体的な方策」や「自分自身の経験」に言及することが求められている。エッセイを採点した結果、大きく2つの問題点が見られた。

まずひとつめは「問題文I、IIの内容」を参考にするのではなく、丸ごと写したり、要点をまとめたりするだけにとどまった解答が非常に多かった点である。「参考にする」とは、それを話題のきっかけとして自分自身の経験やアイデアを論じることを意味する。従って「eスポーツの大会開催」や「方言の使用」は問題文の単なる引き写しであり、自分の意見を述べたエッセイとは言い難い。もし問題文のアイデアが本当に良いと思うならば、少なくともそう考える理由(できれば問題文で指摘されていない内容)を自分自身の言葉で説明する必要がある。

もうひとつの問題点は内容の「浅さ」である。例えば、若者を地方に引き留めるために「ショッピングモールやアリーナを作ればいい」という意見が多く挙げられていた。しかし少しでも客観的な視点があれば、こう書いた後必ず自問しただろう。「それではなぜ地方に大型モールが建設されず、有名アーティストが来ないのか」と。十分な採算性が見込めない所に投資は行われなからだ。それならばどうするのか？ここからが独自のアイデアを展開する見せ場となるはずである。まず自分自身が最初の読み手となり内容を客観的に検証

しながら書き進めるというプロセスがなければ、非常に底の浅い議論になってしまう。難しい語彙や複雑な文構造を知らなくても、きちんとした論理の組み立てが出来ていれば説得力のあるエッセイを書くことは可能である。日常的に身近な問題を色々な視点から考えてみる習慣を身につけることも大切である。

Sample essays

最後にサンプル・エッセイを二つ挙げておく。一つはエッセイ課題の最低限の条件を満たしたものの、一つはエッセイ課題に対して十分に答えたと言える少し長いものである。自学自習や学校の授業で今年度の問題を使われる場合は、こちらのサンプル・エッセイを模範解答として使っていただきたい。

<Sample 1 (Short version)>

Japan's rural population is decreasing and young people are leaving to work in urban areas. Three things that can be done to keep young people in rural areas are: increase good jobs for young people, help develop pride in local culture, and provide a more exciting lifestyle.

First, local governments need to develop businesses to attract young people. As mentioned in article one, Kanazawa city is developing esports to help local youth find attractive jobs. Therefore, I suggest businesses in Miyazaki hire young people to use their interest in SNS to help promote Miyazaki's tourist spots. If young people can have interesting jobs, they will want to stay.

Second, rural communities must develop pride in their local culture and traditions. I am from Aya-cho, but when I travel outside of Miyazaki Prefecture, I feel ashamed of my accent. We should be like people in Iwate who are promoting their local dialect. If all young people felt the same, they might stay.

Finally, life in small towns is boring. Local communities need to create a more exciting lifestyle. Unfortunately, exciting places like malls, movies theaters and restaurants are only available in big cities. I recommend local events created by and for young people, or providing trips to visit bigger cities. If rural life becomes interesting, young people will be happier and will stay in small towns.

In conclusion, if we can help young people find good, interesting jobs, creating pride in local traditions, and give them a more exciting lifestyle, population in our rural areas can be maintained.

(257 words)

<Sample 2 (Longer version)>

In Japan today, the population in rural areas has decreased seriously and young people are leaving to live and work in more urban areas. This is causing the economy and society to also decline in those areas. Although this is a serious problem, there are three things that can be done to improve life in our rural areas: increase chances for good jobs for young people, help rural youth develop pride in their local culture, and provide a more exciting lifestyle. If these three things are done successfully, we can stop the outflow of young people to urban areas and improve the economy and society of the people living there.

First, local governments need to develop businesses that will attract young people. As mentioned in the first article, Kanazawa city is developing esports as a way to help local youth find jobs that are attractive to today's young workers. In addition to esports, young people are very interested in SNS such as Instagram, Twitter, and LINE. Therefore, I suggest businesses in Miyazaki hire young people to use their interest in SNS to help make Miyazaki tourist spots more popular. In this way, young people would have work that is interesting and more visitors will want to come to Miyazaki. If young people can have interesting jobs, they will want to stay and the outflow will decrease.

Second, rural communities must help young people gain pride in their local culture and traditions. I am from Aya-cho, but unfortunately, when I travel outside of Miyazaki Prefecture, I feel a little ashamed because of the way I speak or the way I act is different from people in the big cities. However, we should be like the people in Iwate who are making efforts to save their local dialect. When I was in junior high school, my class visited a senior citizen home and we had a chance to hear local stories from them in our local dialect. Afterwards, I felt so proud to be from Aya-cho. If all young people could feel the same, I think they would want to stay.

Finally, one of the biggest reasons that young people want to leave rural areas is because life in small towns is boring. If local communities want young people to stay, they need to create a more exciting lifestyle. Young people need places to go, interesting shops, and exciting events. Unfortunately, all of these are usually available only in the big cities. I suggest that local communities have smaller events created by and for young people, or provide trips to visit the places and events in the bigger cities. If they can get out of the rural areas now and then, young people will be happier with the less exciting lifestyle of their small towns.

In conclusion, young people living in rural areas face many challenges, and many are choosing to leave their home towns for work in the big cities. However, if we can help them find good, interesting jobs, teach them to have pride in their traditions, and give them a more exciting lifestyle, young people might be encouraged to stay. If we don't, I am afraid our rural areas will slowly disappear and all our important culture and traditions will be lost, forever.

(544 words)